

5. JLAC10の問題点・解決策のまとめ

区分	問題点	原因	解決策	提言書本編	提言書添付資料
■JLAC10の構造	■分析物コード	■測定対象物質が、分析物コード単独、分析物・識別コードの組み合わせで表現されるケースが混在する。	■分析物コードのみで、測定対象物質を表現		
	■識別コード	■定量・定性、負荷、アレルゲン、ウイルス等の多くのアイテムが使用でき、複雑である。 ■測定対象物質が、分析物コード単独、分析物・識別コードの組み合わせで表現されるケースが混在する。	■共通；定量・定性・半定量、負荷、分画、時間、試薬を表現 ■固有；上記区分の明細を表現(例；JLAC10結果固有コードを表現；分画)		
			■検索を容易にする目的で、試薬メーカー・試薬名を追加 ■アレルゲン、ウイルス等の区分は、分析物コードで表現(※)前述の分析物コードに同じ		
	■材料コード	■類似や重複があり、採番に迷う場合がある(例)材料：尿、全血、ぬぐい液)	■追加、削除、集約により再付番		
	■測定法コード	■分野によって、粒度が異なる。	■追加、削除、集約により再付番		
	■結果識別コード	■共通コード・固有コードの使用方法が混在している	■単位の表現に定義を変更		
■17桁コードの付番	■各構成要素を組合わせて17桁コードを付番するのが難しい。時間がかかる。	■5構成要素の組み合わせのルール・事例がない。	■組合わせ事例として、JLAC運用事例コード表の作成と公開 ※当面はJLAC10、今後JLAC11でのコード表		
		■検査項目の単語から17桁コードを簡易に検索できるツールがない。	■検索ツールとして、JLAC検査名称の作成と公開		
	■分画、セット等の付番方法が分かりにくい		■分画、セット、その他の付番ルールの作成		
	■付番に迷った際、問合せ先が分からない		■問い合わせ・迅速な付番体制の整備 ■ホームページで解釈・ルール・事例集等の公開		
		■付番した17桁コードが重複する場合がある	■重複した場合の回避ルールが不明。 ■重複する事例(情報)がない	■ルールを明確にして公開する ■各施設で重複した項目およびその回避策をヒアリングする ■重複した項目と回避方法を開示する	×
■JLAC10の付番体制	■新規項目についての付番が遅い。		■PMDA・中医協の情報から新たな付番体制の整備		

5. JLAC10の問題点・解決策のまとめ

■その他	■JLAC10にローカルコード(先頭文字'Z')の付番を認めており、標準化にならない。	■「新規項目についての付番が遅い」にも関連	■ローカルコードを廃止し、JSLMで承認したコードのみをJLAC10と定義		
			■JLAC11(17桁)は、施設間連携・データ二次利用に目的を限定し、施設内コードとしての利用は推奨しない旨を表記。施設内では独自コードにて運用を推奨		
	■施設内コードとして使用しにくい		■PMDA・中医協の情報から新たな付番体制の整備		
	■細菌検査・病理検査・生理検査への取組みが不明確である。		■JLAC11(17桁)は、施設間連携・データ二次利用に目的を限定し、施設内コードとしての利用は推奨しない旨を表記。施設内では独自コードにて運用を推奨		
■JLAC10に対応したレセプト情報が分からない。			■細菌検査・病理検査は、次回の検討テーマ		
			■生理検査は、外保連の検討結果を参照		
			■診療行為コードをJLAC運用事例コード表にアイテムとして追加		